



あいのっ!

When thawing the snow, we.....

著：夜空野ねこ

画：refeia

原作：あるてみす。



ぶちばら文庫

プロローグ	とーき思い出	…… 3
第一章	アキノサキ	…… 9
第二章	冬の熱々同棲生活	… 43
第三章	あたたかいふゆ	… 82
第四章	冬のお別れ	…… 154
エピローグ	ふゆのあしおと	… 234
アフター	何年目の冬？	… 239

秋野沙姫

(あきのさき)

雪の積もる公園に突然現れ、
智一に恋人宣言した美女。強
引に自宅で同棲を始め、なぜ
かエッチにも積極的。幼いこ
ろに結婚の約束をしたと言う
沙姫は、強気な性格で下ネタ
好きで、ちょっとお馬鹿さん。



「喜んで」

智一は手の位置を横へ持つていくと、形のいいおへそのあたりを撫で回してやった。

「んあ、ああ……はあ、ん、そのまま撫でてね」

沙姫はゆっくりと腰を上下させ始めた。

「はあ、んんう、あっ！」

「くうっ」

亀頭を膣壁で愛撫されるのはかなり気持ちがいい。

沙姫が撫でて欲しいと思う気持ちもよくわかった。

「はあ、あっ、んう、あんう」

甘い声を漏らしながら、抽送を続ける沙姫。

智一も負けじと懸命にお腹の周りを撫で回した。

「はあ、んう……トモって本当にスケベよね……私に……女の子にこうやって腰振らせて、お腹のまわりを触りまくるんだもの」

「男の子はみんなそんなもんなの」

「そうなん……だっ、んう、はあ、んんう」

「でも、お揃いじゃん」

「はあ、んんう、何で？」

「スケベなのは……ね！」

「ひゃああう！」

沙姫は兎みたいに腰を跳ね上げさせた。その動きがより淫らな気持ちを掻き立てる。

「ばかあ、急に動かないでよっ！」

「ごめん。沙姫さんの膣が気持ちいいからさ」

「はあ、んう！ もお……んんっあ！」

沙姫が今度は白蛇みたいに身体をうねらせる。浮き出る肩甲骨が何とも健康的だ。

「おっぱいも、ほら。こんなになってるし」

智一は腕の位置を動かして、小さな身体に似合わない大きな乳房を掴むと指先だけでこね回した。

「んんんう！ 先っぽ触りすぎっ」

乳首の先端をいじるだけで締め付けが強くなる。

そのきつさは苦しさではなく快楽を生みだしてゆく。

「先っぽばかりそんなに触らないでよ」

「わかったよ。じゃあ……」

「はうんう！」

智一は今度は下乳のあたりに何度も指を食い込ませた。

「んう、もう……ばかトモお」

沙姫は猫なで声をあげて、腰の動きを再開する。

包皮に染みこんでくる愛液の量が増えているのがわかるぐらいだった。

「はあ、んんう、あつ、んん、んんう」

美女の膣穴。二晩連続で、その味を堪能していると思うだけで智一に優越感が湧き上がってきた。

「にしても、昨晚まで処女だった人には思えないね？」

髪の毛の乱れをものともせずに抽送を続ける姿は、艶っぽくて扇情的で、さながら娼婦みただい。

「んう、しょうがないでしょ、はあ、んんう！ トモとエッチしているって思うだけで……身体が疼いちゃうんだもんっ！」

「沙姫さんっ！」

「あみゅん！」

智一は腰を思い切り突き入れた。こんなだらしない男にそこまで思ってくれる気持ちだけで、ただただ嬉しかったから。

「はあ、あつ、んんう、んあ、あああ、トモお」

沙姫の喘ぎ声、肉同士がぶつかる音。その二つが、雪のように白い肌を温かくしていく。

「沙姫さんの身体、真っ赤だ」

「はあ、んう、そりや当然じゃない……こんなっ、激しい運動したら、んああ!!」

激しく、そして淫らな上下運動を続けながらもお互いの心も求めて会話を交わし続ける。

「……トモは、しんどくないっ？」

「なんで？」

「私を……上に乗せてて」

「んー……沙姫さんちっこいし、全然負担にならないけど」

「ちっこいって……また、そうやって馬鹿にするっ！」

「そのおかげで、ここもすごい狭いけれどね」

智一は肉竿を左右に動かしてやった。

「ああっ、んんあ！ いきなっ……あああ、あつ！ 左右にふつちゃ、らめっ」

そうして狭い膣壁を更に拡張する。

「はあ、んう、昨日も思ったけど、トモのおちんちんがおつきすぎるのよ！」

「でも、ろくに見たことないんでしょ？」

「うっさいわね！」

「いてっ！」

軽くお腹を殴られた。

「まあ、どうなんだろうね。そういえば、俺、他の男のちんこ、見たことないや」
「えっ？」

「まー、たぶん人間って興味ないことは覚えなからだよ」
同性の性器をまじまじと見る趣味はないのが普通だ。

「あー、うんそうよね」

沙姫は口早に答えると、腰も速く動かし始めた。

急激な抽送で亀頭が上へと持っていられる。

「沙姫さんっ！ いきなりすぎ、はあ、んう！」

「ふふ、さっきの仕返しよっ！」

得意げに言い放つと、いやらしい音を噴き上げながら小さな身体を空高く上昇させる。

「はあう、んう、けどっ、絶対今日のおちんちん、今までのトモのおちんちんの中で一番熱くて遅しいと、んう、思うっ……。だって、奥まで届く度につ、はう……。私の脳がどうにかんちゃうんだものっ！」

「沙姫さんっ」

「はあ、ふうう、んんう！ ねえ、トモっ」

「なに？」

「さっき出してたっ、先走り汁で、んう……。いっぱい膣の中、いじっていいよっ。お風呂

にまだ入ってないから……。はあ、んんう、あとで綺麗にできるし」

「はあ、くうっ！」

智一は沙姫の言う通り、おもいつき肉棒を擦りつけた。

ほとぼり始めている先走り汁を膣のいたるところに染みこませていく。

「そう、もっと！ 私の子宮につ！ んんあ、んんう！ そうっ、そこらへんっ！」
愛液を掻き分けながら、図太い肉竿を容赦なく振り上げる。

そうして、膣の一番奥を蹂躪していく。

「沙姫さんっ、どう？」

「うん、きてるっ！ トモのっ、奥の方につ！ 入ってきてるよお！」

昨晚、精液を放った場所。智一はそこを、ただひたすらに責め続けた。

「ふあ、あっ！ んんう、ああっ、はあ、ううあ、トモお！」

喘ぎ声とともに、沙姫の腰の動きも加速していく。

枝毛一つない短髪から汗粒が激しく幾度となくこぼれ落ちる。

「んんあ……。ふあ、あっ、こら、トモっ！ 腰だけじゃなくって……」

「はあはあ、こっちもだね」

尖りきった乳頭も指先で抓んでやる。

「はああうんうん！ ばかっ、優しくつねってよっ」

「んっ、ごめん」

言われて指の力を弱めていく。そうして、グミみたいになった乳首を優しく弄ぶ。

「そう、んう！ 女の子は優しく扱ってよね！」

「次から気をつけますよっ」

汗まみれでよく滑る肌の感覚を楽しんだ。けれど、よく滑るのは肌だけではない。

「くう、沙姫さんの膣、すっごい滑る」

「それはこんなに長時間、突かれ続けたら……」

「そうだよね。恥ずかしい液体すごいでてるもんっ」

「はぐうん！」

智一は肉竿を揺すって、わざと淫靡な水音を立ててやった。

「聞こえるでしょ？ エッチな音が」

「はあ、あっ、んう、そんなのっ、わかってるわよっ！」

「おかげで、すっごい気持ちいいよっ」

「トモお、んう！ はあ、んんう！」

沙姫は耳まで真っ赤にした。

「あっ、ああああ！ んあ、はあ、いいよ、トモっ！ はあはあ、んんあ！ ああっ、あつ、きてるっ！ 子宮口につ！ ……さっきまで足蹴にしてっ、んうあ、いじっていたお



ちんちんきてるっ！」

身悶える沙姫を見てみると、智一の興奮も助長された。

セックスとはお互いの共同作業なのだから。

「はあはあ……くはあ、くう！ 沙姫さんっ！」

智一は動きやすいように沙姫の細い腰を掴んだ。そうして、更に下半身を激しく動かす。

「んんあ！ ああ、トモっ！ トモおお！」

高まっていく快感。一緒に沙姫と昇り詰めている感覚が、より智一の動きを加速させた。

「はあああああう！ ああ、あつ、あああああ！」

「ああっ、くうう、沙姫さんっ！」

お互いにそろそろ限界。最後の力を振り絞って、もっと頂上へと走っていく。

「はんんうん！ いいよっ！ トモっ、今日も膣に出してっ！」

「きよ、今日も……」

「そう！ んあ……うあ……トモの赤ちゃん欲しいからっ……膣にっ！」

途切れ途切れに言葉を漏らす沙姫。

「わかったよ……沙姫さんっ！」

沙姫の気持ちに応えたかった。智一は腰を思い切り突き上げて、子宮に照準を合わせる。

「はんんう……んあ……ふあつ……きてえ、トモ……あああつ、んう！」

「はあはあ、しつかりと奥まで注ぐよっ！」

沙姫のお腹のあたりに手のひらを移動させて、円を描くように撫で回した。

「ここにいつぱい注ぐからっ！」

「ひやあ、うあ……うん、注いでっ、そこに……お腹にまで届くくらいにっ」

甘い声に誘われながら、腰を必死に突き上げる。本当にお腹まで届かせたかったから。

「ふあつ、あああつ！ んんあああ！ あつ、トモっ！ 受精させてっ！ 濃くて熱い精液ちようらいいい！」

「うんっ！」

制限時間ぎりぎりの爆弾を抱えるような思いで、膣奥へと走り抜ける。

「ふあっ！ くうう！」

柔らかい最終地点。ゴールテープを切るかわりに、先端の鈴口が切れた。

「ひやはああああうん！」

膣奥で弾け飛ぶ精子。まるで、炸裂弾のように細かい破片を膣壁へぶつけてゆく。

「んあ、はあはあ……きたよっ、トモの精子……子宮にきたよ」

「うん」

そう繰り返す沙姫に、智一はお腹を優しく撫でながら願いをこめた。

よい子が宿りますように、と。

あいらっ!

When drawing the snow, we

描き下ろしアフターストーリー

何年目の冬？

著：天姫あめ 画：refeia

To be continued.



ぷちばら文庫
あいのっ！

2011年 1月20日 初版第1刷 発行

■著 者 夜空野ねこ
■イラスト refeia
■原 作 あるてみす。

発行人：久保田裕
発行元：株式会社パラダイム
〒166-0011
東京都杉並区梅里2-40-19
ワールドビル202
TEL 03-5306-6921

印刷所：中央精版印刷株式会社

本書の内容を無断で複製・複写・放送・データ配信などを行うことは、
かたくお断りいたします。

落丁・乱丁はお取り替えいたします。

定価はカバーに表示してあります。

©NEKO YOZORANO ©ARTEMIS

Printed in Japan 2011

PP006



2月10日 発売予定

HeartNip
GALAXY



伊織ちゃんのエッチな挿し絵を、
ゲスト作家が描き下ろし大合作!

あらいぐま
三色網戸。
蜜キング

ぶちばら文庫10
蝦沼ミナミ 著
みさくらなんこつ 他 画
ハースニール 原作
定価 670円(税込)

朝からすっしり

ミルク
ポット

Milk Espresso "Hot Yuck!" is
covering up a shameful secret.
It's growing between her gums...

